

酪農試験場だより

No. 82

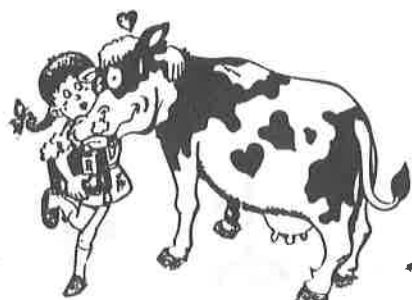


FQAの分析風景

今月の内容

- 1 第9回酪農試験場公開デーのご案内
- 2 最近の牛受精卵移植成績について
- 3 自給飼料分析指導事業を利用しましょう

第9回酪農試験場公開デーのご案内



当场では、県内酪農家の要望に応えるべくバイオテクノロジーを応用した「牛の核移植技術」など最新技術の開発や酪農に関する各種試験研究、事業を行っています。このたび、その成果を広く県民のみなさまにご覧いただき、酪農試験場についての理解と認識を深めていただくため、第9回酪農試験場公開デーを下記のとおり開催いたします。また、当日は第10回栃木県ホルスタイン共進会も同時に開催され、さらに隣接の農林水産省草地試験

場の一般公開も行われますので、是非ご来場下さい。

記

1. 日時

平成9年10月22日（水） 10時から15時まで

2. 場所

栃木県酪農試験場（西那須野町千本松298）

3. 催し物

◇試験研究成果の展示

パネル、写真を使ってやさしく説明します。

◇スーパーカウの展示

アメリカ、カナダから輸入した高能力牛を展示します。

◇場内一周“楽農”クイズ

商品を多数用意しています。

◇乳搾り体験

実際に乳搾りが体験できます。

◇ふれあい牧場

かわいい小動物が待っています。

◇骨密度測定コーナー

骨粗鬆症対策として、是非測定をおすすめします。

◇その他

手作りバターの実演、児童の絵画展示

酪農器具や動物用医薬の展示

牛乳、アイスクリーム、とうもろこしのサービス等

（経営調査部 高根沢文夫）

●交通のご案内



●Jバス場原行
試験場前下車徒歩10分
●東北自動車道
西那須野指原インターから2分

最近の牛受精卵移植成績について



今回は最近の牛受精卵移植成績について紹介します。まず、平成6年度と8年度の採卵成績について示しますと、平成6年度は乳牛が83頭、和牛が316頭で合計399頭採卵し、採卵個数は3,903個でした。そのうち移植可能な正常卵数は1,948個で、1頭当たり4.9個の正常卵が得られました。平成8年度は乳牛が103頭、和牛が356頭で合計459頭採卵し、採卵個数は4,787個で正常卵数は2,107個でした。1頭当たりの正常卵数は

4.6個で、1頭当たりの正常卵数は平成6年、8年とも同じ様な成績となりました。ステップワイス法で凍結していた平成3年と最近の採卵頭数を比べると、ダイレクト法での凍結により移植が簡便になったこともあり、合計では約3倍、特に和牛は約3.6倍に増えてきています。

次に移植成績について平成6年度の成績では、新鮮胚は261頭に移植、154頭が受胎し、受胎率は59.0%でした。凍結胚は848頭に移植し、371頭が受胎し、受胎率は43.8%で、新鮮と凍結の合計の受胎率は47.3%でした。採卵成績と同じように平成3年と比較すると、移植頭数は新鮮胚で2.3倍、凍結胚で2.4倍に増え、受胎率は新鮮胚で9.9ポイント、凍結胚で5.5ポイントアップしました。牛受精卵移植技術を野外でさらに普及させるため、現在、酪農試験場では採卵成績の向上を目的とした採卵試験や、凍結卵の受胎率向上のための移植試験を実施中です。

当場に牛を持ち込んで採卵をする場合、現在は毎週月、木曜日に行っていますが、採卵を農家で行う場合には獣医師に採卵器具の貸し出しも行っていますので、家畜保健衛生所または酪農試験場に相談して下さい。

採卵成績

年度	品種	採卵頭数	採卵数	正常卵数	正常卵数/頭
平成3年	乳牛	61	464	264	4.3
	和牛	98	1382	722	7.4
	合計	159	1846	986	6.2
平成6年	乳牛	83	641	320	3.9
	和牛	316	3,262	1,628	5.2
	合計	399	3,903	1,948	4.9
平成8年	乳牛	103	765	278	2.7
	和牛	356	4,022	1,829	5.1
	合計	459	4,787	2,107	4.6

移植成績

年度	種類	移植頭数	受胎頭数	受胎率
平成3年	新鮮	114	56	49.1
	凍結	360	138	38.3
	合計	474	194	40.9
平成6年	新鮮	261	154	59.0
	凍結	848	371	43.8
	合計	1,109	525	47.3

(改良繁殖部 岡崎克美)

自給飼料分析指導事業を利用しましょう

粗飼料の栄養価は、気候などの自然条件や収穫、調製、貯蔵などの人為的条件によって影響を受けますので昨年の粗飼料と今年の粗飼料の栄養価が同じというわけにはいきません。栄養価が異なってくればせっかく給与診断を行っても、意味のないものになってしまいます。それだけならまだしも、正しい給与診断を行っていると、給与不足や給与過多のため繁殖障害などで牛をだめにしてしまうことにもなりかねません。

逆に優良事例を紹介しますと、本事業に参加した農家がありました。その農家は本事業で粗飼料の分析を行い正しい栄養価を把握した上で給与診断し、常に餌の量をチェックし過不足なく給与したところ1年後には牛群の平均値で年間乳量900kg、乳脂率で1.0%の伸びを示し、中には年間乳量2,000kgも伸びた牛もいました。その上、繁殖成績が空胎日数で25日も短くなりました。

このように、安定した経営には確実な粗飼料分析と給与診断が必要ですので、一度自給飼料分析指導事業に参加してみたらいかがでしょうか。

このようなことから、酪農試験場では昭和58年に自給飼料分析指導事業を開始し粗飼料の分析とその結果に基づく飼料の給与診断を行っています。昨年度は、合計707点という分析依頼がありました。また、昨年まではCP、DCP、TDN、CF、Ca、Pの分析を行っていましたが今年からはNDFについても加えて分析しています。また、硝酸塩中毒を引き起こす硝酸態窒素についても硝酸態窒素濃度の高くなりやすい、イタリアンライグラスサイレージとソルガムサイレージについて施肥量が明確で分析希望のものを原則として分析しています。詳しくは、酪農試験場経営調査部または最寄りの農業改良普及センターまでお問い合わせ下さい。

今後とも当事業の趣旨をご理解の上、事業の推進、利用についてよろしく願いいたします。

*今年度の9月以降の分析受付日

9/10 10/8 11/12 12/3 12/17 1/14 2/4 2/25 3/18 (すべて水曜日)

(経営調査部 濱田 勉)

酪農試験場だより 栃木県酪農試験場

No 8 2

〒329-27西那須野町千本松298

平成9年9月1日

電話0287-36-0280